

発達心理学概論[特論] 【第11講】

テキスト第Ⅵ章前半

想像力の発達

—創造的想像のメカニズム—

内田 伸子

(お茶の水女子大学)

uchida.nobuko@ocha.ac.jp

想像力の発達

(1)想像力とは何か

(2)創造的想像のメカニズム

(3)物語の創造[第12講]

参考文献:

内田伸子 1985 『ごっこからファンタジーへ
—子どもの想像世界—』 新曜社

内田伸子 1990 『想像力の発達—創造的想像のメカニズム—』
サイエンス社

内田伸子 1994 『想像力—創造の泉を探る—』 講談社

内田伸子 1999 『発達心理学—ことばの獲得と教育—』
岩波書店

(1) 想像力とは何か

●目に見えないもの(未来)を思い浮かべる能力

1. 見通した未来が人を不安に陥れる

ミヒユエル・エンデ『モモ』岩波書店

2. 満たされない欲求が満たされる日として未来を
意識する

ムビティ『アフリカの宗教と哲学』法政大学出版会

未来の概念 → ザマニ(無窮)の過去

3. 現在に未来をつなぐことにより現存する苦痛から
逃れる

フランクフル『夜と霧』みすず書房

→未来に向かって生きる



なぜ想像力をもつに至ったか

1. 見通した未来が人を不安に陥れる

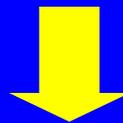
e.g., ミハエル・エンデ
『モモ』岩波書店;

- ◆ 意識の上にはしか存在しない「未来」
によってからだの自由が奪われて
しまうことすらある



「なあ、モモ。とっても長い道路を受け持つことがよくあるんだ。おっそろしく長くて、これじゃとてもやりきれない、こう思ってしまう。」

「そこで、せかせかと動き出す。どんどんスピードをあげてゆく。ときどき目をあげて見るんだが、いつ見ても、残りの道路はちっともへっていない。だからもっとすごい勢いで働きまくる。心配でたまらないんだ。そしてしまいには息が切れて動けなくなってしまう。」

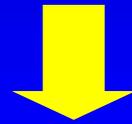


「こういうやり方はいかんのだ。」

ミハエル・エンデ『モモ』岩波書店
ベツポ爺さんのことばより



「いちどに道路ぜんぶのことを考えてはいかん、わかるかな？ つぎの一步のことだけ、つぎのひと呼吸のことだけ、つぎのひとはきのことだけを考えるんだ。 いつもただつぎのことだけをな。」



「すると たのしくなってくる。 これがだいじなんだな、たのしければ、仕事がうまくはかどる。 こういうふうによらにゃあだめなんだ」

「ひょっと気がついたときには、一步、一步すすんできた道路が全部終わっとる。 どうやってやりとげたかは じぶんでもわからん。」



2. 満たされない欲求が満たされる日 として未来を意識する

e.g., ムビティ『アフリカの宗教と哲学』
法政大学出版会

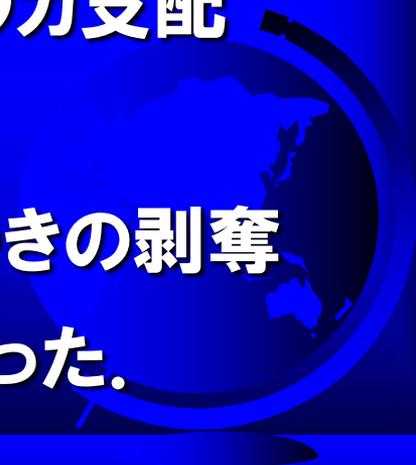
●アフリカ人の伝統的な考え方：
未来の概念 無し

→1885年 ベルリン会議による欧のアフリカ支配

→「近代化」

→人間性の喪失・土地との神秘的な結びつきの剥奪

→ザマニ<無窮の過去>にすぎることがようになった。



3. 現在に未来をつなぐことにより 現存する苦痛から逃れる

e.g., V.フランクフル・霜山徳爾

『夜と霧 —ドイツ強制収容所の体験記録—』
みすず書房；

★ 極限状況下で内面化の傾向
が著しくなる. ⇔想像力！



想像力 ↔ 生きる力

1992年6月 フランクフル先生来日

実存分析学会で基調講演

★極限状況下での内面化の傾向が

著しくなる ↔ 想像力

フランクフル

『夜と霧 —ドイツ強制収容所の体験記録—』

霜山徳爾訳(1965)みすず書房

111-112頁(主題)

人間が強制収容所において、外的にのみならず、その内的生活において陥っていくあらゆる原始性にもかかわらず、たとえ希ではあれ、著しい内面化への傾向があったということが述べられねばならない。

元来、精神的に高い生活をしていた感じ
やすい人間は、ある場合には、その比較的
繊細な感情素質にもかかわらず、収容所の
生活のかくも困難な外的状況を苦痛ではあ
るにせよ、**彼らの精神生活にとって、それ
ほど破壊的には体験しなかった。**

なぜならば、彼らにとっては、恐ろしい
周囲の世界から精神の自由と内的な豊かさ
へと逃れる道が開けていたからである。
かくして、そして、かくしてのみ、繊細な
性質の人間がしばしば頑丈な身体の人々よ
りも、収容所の生活をよりよく耐え得たと
いうパラドックスが理解されうるのである。

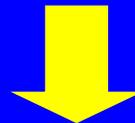
→人はパンのみにて生きるのではない

★内面化の傾向

= **想像力** の発揮

→「生きる力」を与える

→収容所体験を通して「**実存分析**」を創始



人間は未来に向かって生きる
ための「**自由意志**」をもつに至る

想像力の出現へ

人間の内的な偉大さ

「苦悩の冠」 一人の若い女性の死

この若い女性は自分が近いうちに死ぬであろうことを知っていた。それにもかかわらず、私と語った時、**彼女は快活であった。**

「私をこんなひどい目に遭わしてくれた運命に対して私は感謝していますわ。」

「なぜかと言いますと、以前のブルジョワ的生活で私は甘やかされていましたが、本当に真剣に精神的な望みを追ってはいなかったからですの。」

(フランク『夜と霧』170頁より)

人間の内的な偉大さ

「苦悩の冠」 一人の若い女性の死

最後の日彼女は内面の世界へと向いていた。

「あそこにある樹はひとりぼっちの私のただ一つのお友達
ですの。」

バラックの窓の外を指した。

外では一本のカスタニエンの樹がちょうど花盛りだった。
病人の寝台の所に屈んで外をみると、バラックの病舎の
小さな窓を通してちょうど二つの蠟燭のような花をつけた
緑の枝を見ることができた。

(フランクフル『夜と霧』171頁より)

「この樹とよくお話ししますの。」と彼女は言った。
私は一寸まごついた。彼女のことはの意味が判らなかった。

彼女は、**せん妄**状態で幻覚を起こしているのだろうか？
不思議に思って私は彼女に訊いた。

「樹はあなたに何か返事をしましたか？
-----しましたって！-----では何て樹は言った
のですか？」

彼女は答えた。
「あの樹はこう申しましたの。私はここにいる。
-----私は-----ここに-----いる。私はいるのだ。
永遠の命だ。」

(フランク『夜と霧』171頁より)



実存分析(Logotherapy)

Viktor E. Frankl (1947)

『夜と霧 —ドイツ強制収容所の体験記録』みすず書房

ウィーン大学神経科・精神科の教授

●第3ウィーン学派

フロイトやアドラーの業績を継承・発展

→人間と動物の共通性「動物性・衝動性」
これに加えて

★人間特有の「精神」を重視

「精神」; 人間以外の動物には存在しない高次元のもの



→ **ロゴス＝実存(c.f.,理性)**

「分析」:人間に本来備わっている意味に焦点をあてて理解する方法

人間観: 人間は自らの自由意志に基づいて
人生の意味や価値を追求する存在
である.

(1992年, 91歳 日本医科大学講演)

→ **意味への意志を発動する存在**

by Creative Imagination





No.2

想像は創造の泉

—創造的想像のメカニズム—

創造的想像のメカニズム

想像は創造の泉

・未来を思い描く**素材** = 経験

◎想像 ⇔ 経験

△想像 ≠ 経験

経験を複合したり脈絡をつけるとき

何か**新しいもの**が付け加わる



創造の可能性

2歳5ヶ月

うさタン、
ピョンピョン



イテェー、
ころんだよ、
石(絵の石をさす)
ころんだ



エーン、エーン、
うさタン、エーン
(顔に手をあて
泣き真似をする)



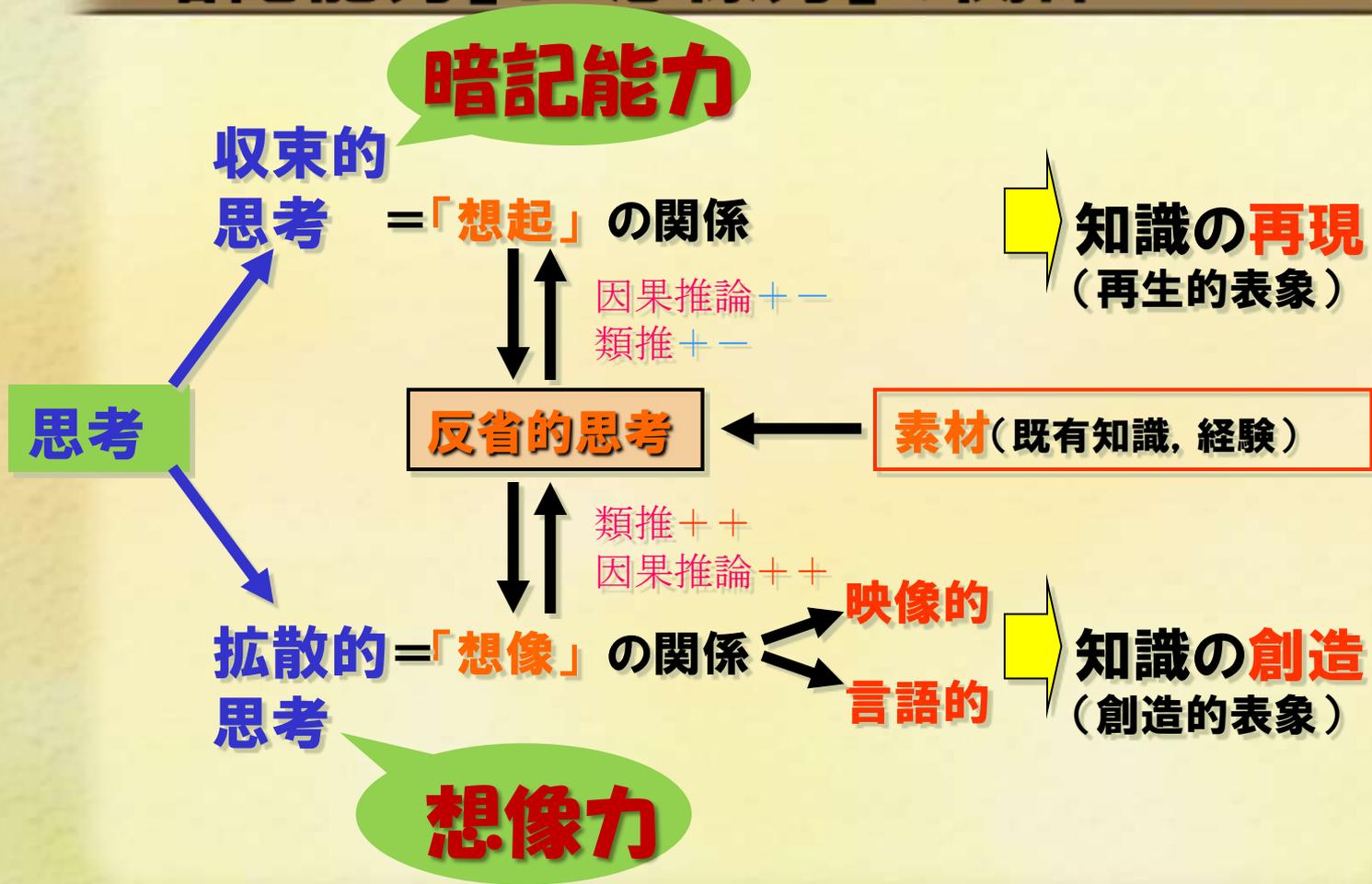
3歳8ヶ月

うさこちゃんが、
お月さんを見ながら、
楽しくダンス
していました

上ばかり見て
おどっていたので、
石ころにつまづいて、
水たまりにしりもちをつい
てしまいました

頭から、水ぬれに
なった。
うさこちゃんは
泣いてしまいました

「暗記能力」と「想像力」の関係



素材の加工のメカニズム

1. 類推 \longleftrightarrow 比喻

2. 因果推論 \longleftrightarrow 可逆的操作

類推(analogy)

人間の心はすでに知っている馴染
みのあるものに新しい経験を関連
づけるために、どんな類推が可能
かにたえず注意を払っている。



No.3

想像力の発達

--類推→比喻の生成--

類推 (analogy)

人間の心はすでに知っている馴染みのあるものに新しい経験を関連づけるために、どんな類推が可能かにたえず注意を払っている。

類推による推論

知的な問題についての最も豊かな**仮説の源泉**であり、**知識の創造の源泉**となる。

- いたるところで見られる思考のやり方に合うように言語を形造ってきた。
- 思考の仕方は私たちが話すやり方に秩序と方向を課している。

→ **比喩**



知識の創造：比喩

「比喩は単にことばの用例でもなければコミュニケーションの説得のために用いられる特殊なレトリックの道具でもない。むしろ、比喩は、ある領域から別の領域へ知識を概念的に引き移すことを通じて、人々が自分自身や世界を理解するための基本的な心的能力なのである。言語、思考、科学、法律、芸術、神話、文化における比喩の圧倒的な遍在性は、比喩が人間生活にとって不可欠な部分であることを例証している。」

(レイモンド・ギブス)

- ◆語源 = 「メタフォラ」(ギリシャ語)
メタ: 「変化」を意味する接頭辞
フェレイン: 「移動する」

子どものつぶやき

「ゆうあけこあけのかたまりだ！」

3歳男児

「ここで雲をつくってたのか！」

4歳女児

「おかあさんはおばあちゃんから生まれたんでしょ. じゃあ, お父さんはおじいちゃんから生れたの？」

5歳男児

「(白と黒の)パンダはおめでたくない
動物なんだね、きっと」

6歳 女児

比喩の機能

(1) 意味の拡張

私たちの所有する **乏しい語彙** を活用して
複雑な現実 を特徴づけることを可能にする

(2) 潜在的性質の一部を強調

属性として存在しているが、通常は
注目されない側面 に光をあてる



比喩表現の例

理論はしばしば建物に擬えて記述される

《理論X》 → 《建物Y》

Xの[基礎]

Xの[土台]

Xの[枠]

Xの[骨組]

Xの[柱]

例文

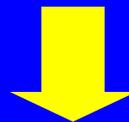
- この理論の基礎はしっかりしている。
 - A理論の土台はがたがただ。
 - 例の理論の基本的な枠がまだ完成していない。
 - その理論は骨組から建て直さなければならない。
 - B理論は三つの支柱からなっている。
- 

直喩表現 similitude

N: 新しい馴染みのない項

O: 古い馴染みのある項

SIM: 直喩の連辞(copula)



直喩表現の一般的な型式

$SIM(N, O)$
= 「NはOと似ている」



① どちらの言い方をするか

a. 「北朝鮮は中国と似ている」

b. 「中国は北朝鮮と似ている」

(69人中66人がa.)

∵中国の方が目立っている(馴染みがある)
と感じられるから

② 類似度の評定

20点尺度で国の類似度を評定

→ $SIM(N, O) > SIM(O, N)$



人は $SIM(O, N)$ よりも
 $SIM(N, O)$ の表現を好む



比喩表現の生成機能

直喩(similitude)

「次郎の妻は次郎の母みたいだ」

◆「次郎の妻は次郎の傘みたいだ」



類似性は 外見 ではなく 機能

(次郎が何かから身を守るために妻を使うやり方が
雨から自分を守るために傘を使うやり方と似ている)



次郎と妻の関係について新しいことを述べるために
よく知っていることに関係づけている。

隠喩の理解過程

隠喩(metaphor)

「次郎の妻は次郎の傘だ」

直喩に比べ 余分な心的段階を
経なければならない

- ∴ 隠喩が基づいている直喩を復元した後に直喩を理解しなくてはならないから



新しい意味の生成

Eliot, T. S.

“The Love Song of J. Alfred Prufrok”

**“When the evening is spread out
against the sky,
Like a patient etherized
upon a table.”**

- この2行を知ったあとでは夕暮れの静けさを前と同じようには見えなくなる。
- 新しい考えを馴染みのあるものに結びつけるのに限界はない。

“The yellow fog that rubs its back upon
the window panes.”

(1)霧には背中などない。

“背中”の含意は何？ この行は隠喩だ！

(2)隠喩は直喩に復元できる。

SIM(P(霧)), 背中をすりよせる(何か)

?①

?②

(3)①背中を「すりよせる」ような行動をするものは？

→ 猫！

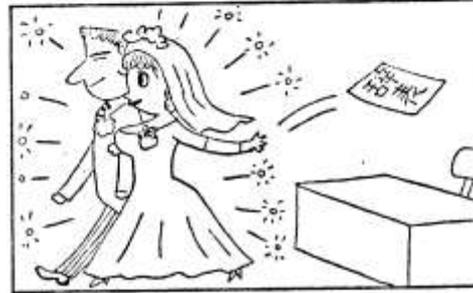
②霧のどんな性質が背中をすりよせる猫のよう
なのか？ → ぐるぐる渦を巻くこと！

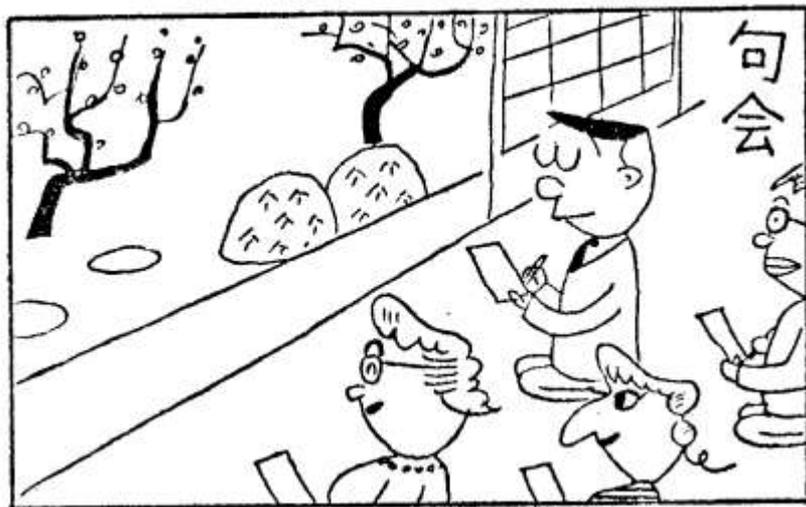
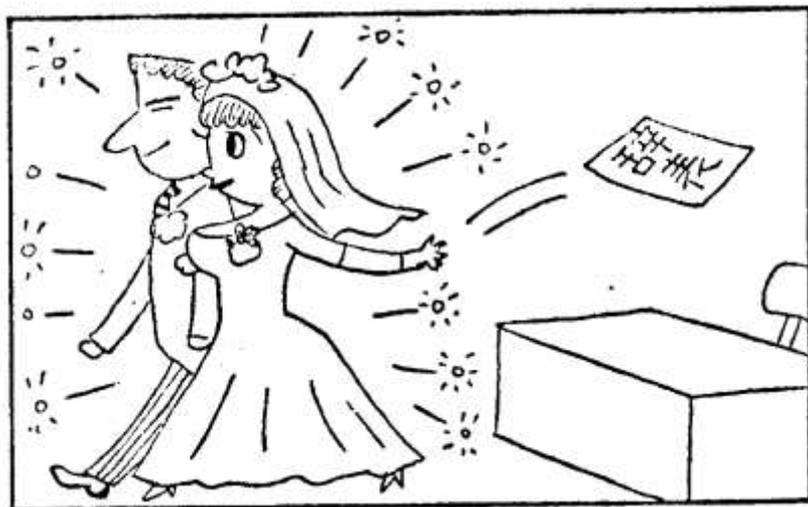
(4)直喩の再構成:「黄色い霧が背中をすりよせる猫の
ように窓ガラスで渦を巻いている」

(霧を猫のよく知られたことに関連づけている)

ViVi 三太郎

サトウ サンペイ





想像力の意義

もし人が古い経験をそのまま再生するなら、過去に向かっていきているにすぎない。

新しい未来に向かって前進し、現状をより高いものへと変えることができるのは、人間の特質である想像力をはたらかせ、以前になかったものをつくりだすという認識のしくみに負っているのである。

(内田, 1994)





No.4

想像力の発達

—因果推論;可逆的操作—

虚構と現実の関係づけ;カットバック

「夢の中の出来事」

◆宮沢賢治『銀河鉄道の夜』

ジョバンニが親友のカンパネルラと銀河鉄道に乗って不思議な旅を体験する。この体験は夢の中の出来事である。

ジョバンニは 目を開きました。もとの草の中につかれて 眠っていたのでした。胸はなんだかおかしくほてり、ほうにはつめたい涙が流れていました。

★時間のしかけの巧みさ

組み込み技法

●現実と非現実の往復

《意外なエピソード》や《脱線》
「夢の中の出来事」



筋の展開に緊張がもたらされる

●後退を可能にする認知能力



可逆的操作

可逆的操作

●因果的思考の中心的役割

●何歳頃から使えるか？

★7, 8歳～(Piaget)

←「因果スキーマ」= ア・プリオリ

「前から後ろへ」= 生後4ヶ月

★5歳後半～(内田, 1985)

「後ろ→前へ」の言語化

5歳後半～ 時間概念の成立

順向条件



①



②

逆向条件

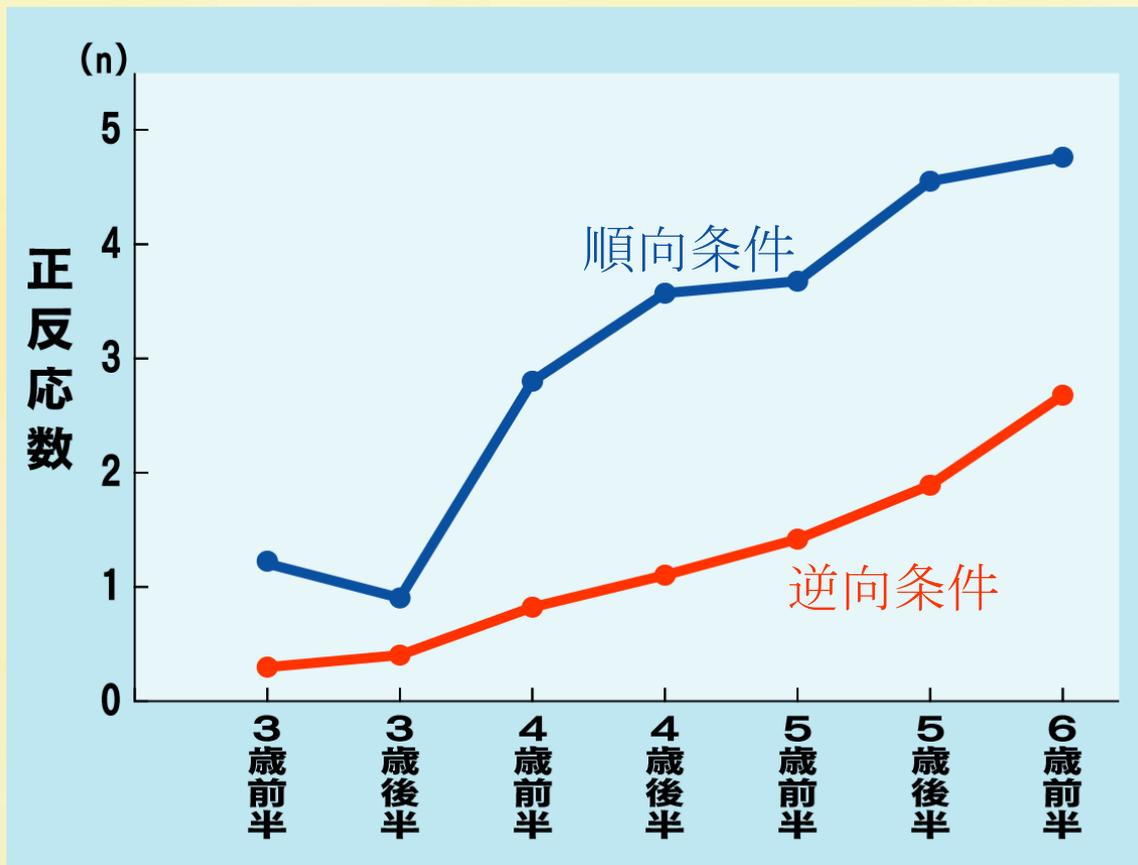


②



①

正反應數





②

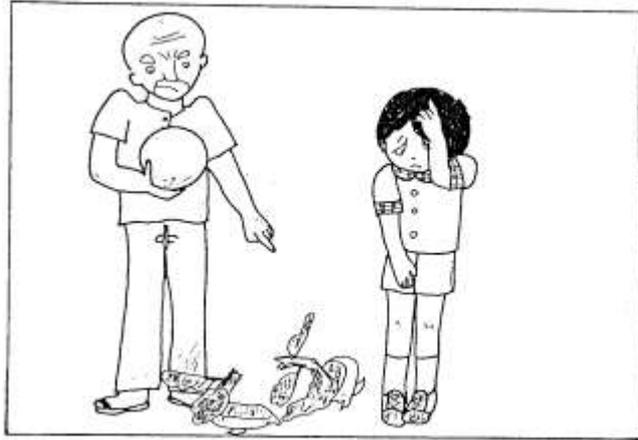


①

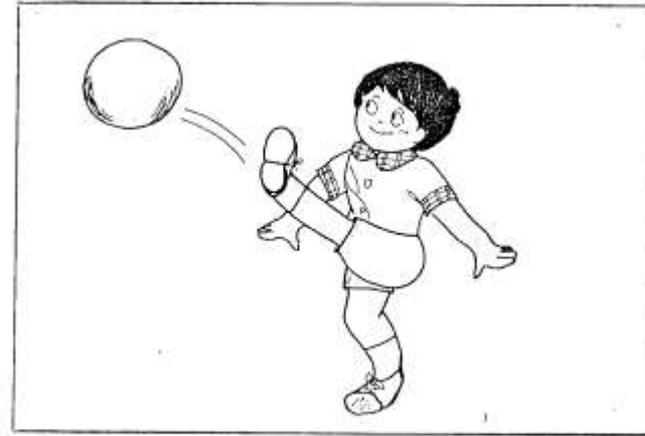
逆向条件

「歯医者さんに行って歯が治ったので、
またお菓子を食った。」

M. T. 4歳8カ月



②



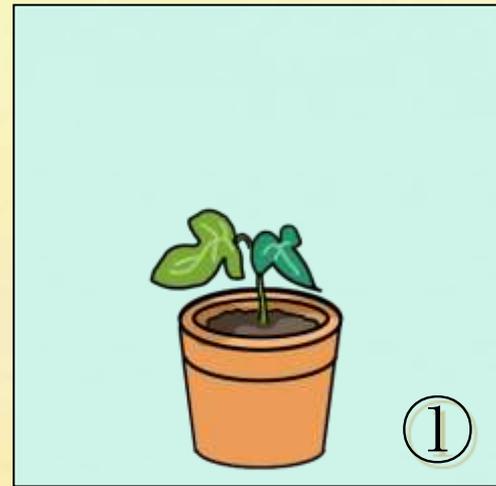
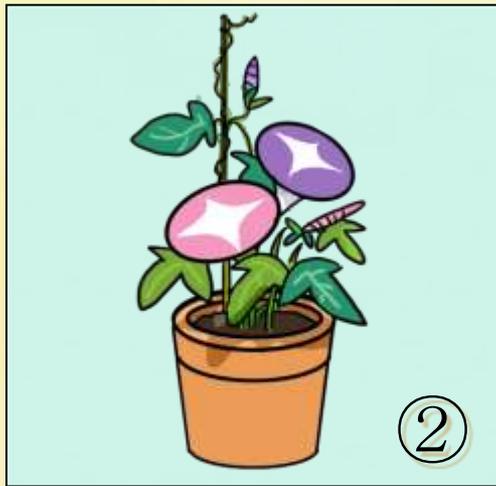
①

逆向条件

「ボールで植木鉢をこわしておじいさんに怒られた。
こんどは気をつけてボールをけった。」

T. Y. 5歳3カ月

逆向条件



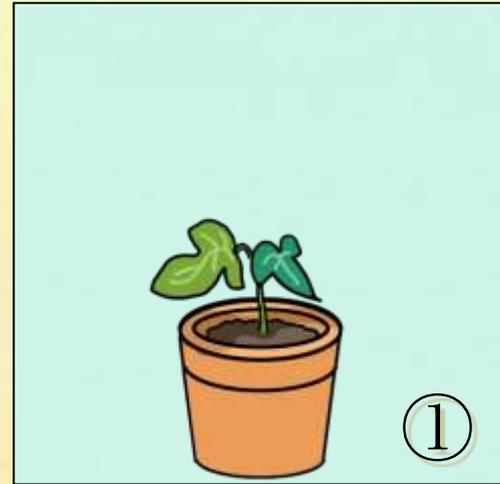
S: 「うーん、ほんとうは芽からアサガオになるんだけど…」

E: 「そうね、だけどこっち②の絵からは作れない？」

S: 「うーんと…、アサガオが、小さくなって、芽になった」

T. I. 5歳5ヶ月

逆向条件



★時間間隔を長くして提示順に言及

S : 「 (P .) アサガオが咲きました .

(P .) アサガオが咲いて種ができたので ,
種をまいたら , また芽がでました . 」

S. T. 5歳8カ月

逆向条件で用いられた方略

事象順方略

“まさおちゃんが石につまづいて転んでしまいました。
そして、ひざっこぞうから血が出てしまいました。”

A. N. 5歳7カ月

提示順方略

“まさおちゃんが、転んでけがをした。
そして、また転んでしまった。”

R. M. 5歳7カ月

逆順方略

“まさおちゃんは、ひざが赤くなって、泣いています。
どうしてかというと、まさおちゃんは、さっき、石につまづいて、転んでしまったからです。”

S. I. 5歳10カ月

コメント付き事象方略

S:「いたいよーって転んで、……(と作りかけたところで)
最初はこっちから(と書いて①のカードを指す).」

E:「そうね、だけどこっち(②を指す)からはお話できない？」

S:「できないよ、順番が決まってるんだから.」

E:「それじゃあ、こっち(①)から作ってみて。」

S:「(①のカードを見ながら)

石ころがね、べたーってつけてあったのね。

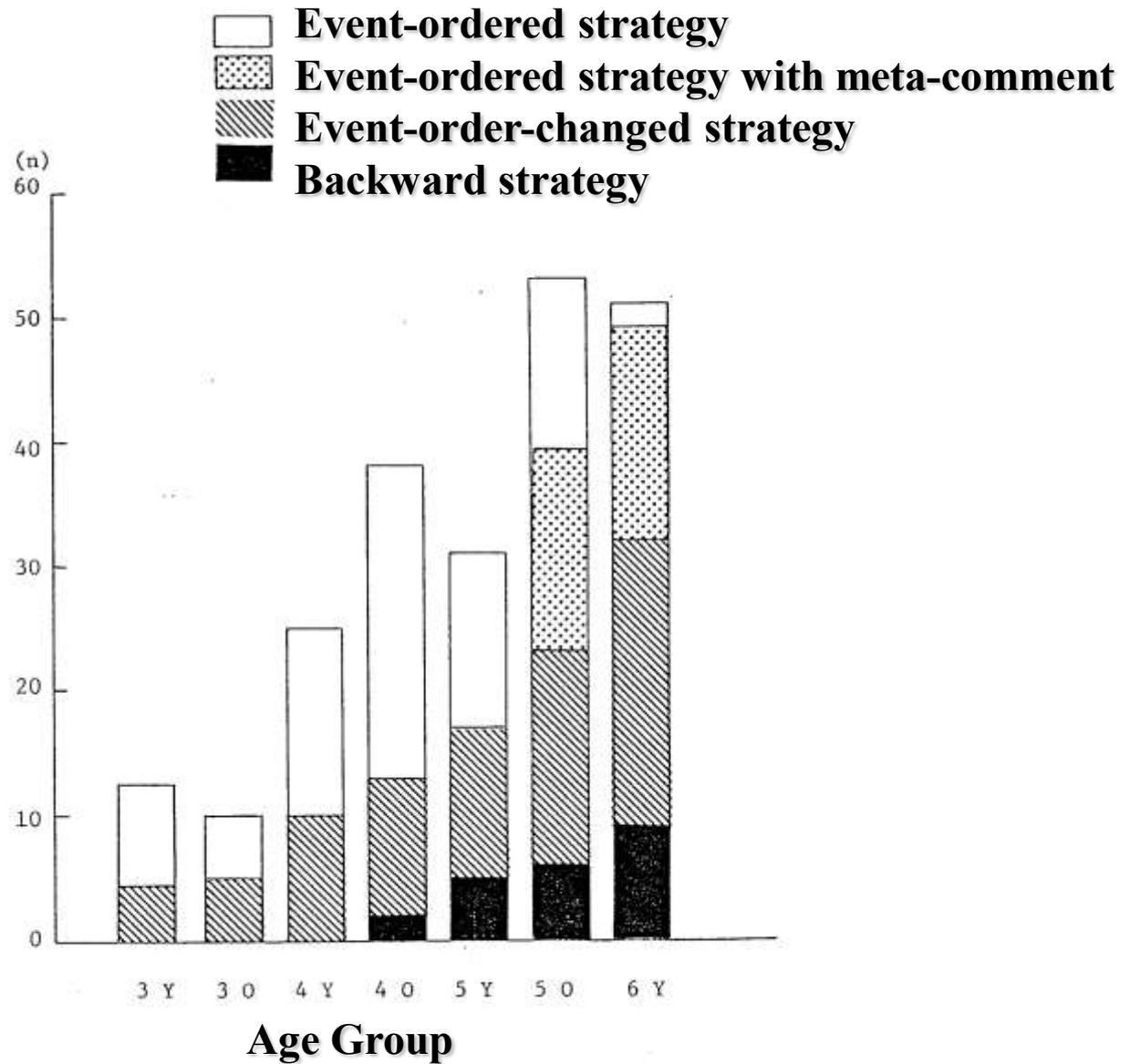
そしてね、くつがつかかかってね、

“あー”って言って転んじゃったの。

(②のカードを見て)

けがしちゃった。そして、くつがどっかいっちゃった。」

H. M. 6歳4カ月



Types of strategies used in the backward condition

エミリーの独語

パパがきて、それからパパがエミーを起こしたとき、それから、
パパがエミーを起こして、それから、それから、……それから、
カールが遊びに来て、エミーすぐには大丈夫じゃない、エミーは
おねむ、おねむなの、来年、来年、カールがくるの、そして、
赤ちゃんがくるの…… [22ヶ月20日]

カールとエミリー……カールに会う、カー(ル)に会う……そして
彼女は泣くの、それから彼女は泣いちゃうの、そしてベティーを
(呼ぶの)、だから彼女はパパとママはずーっといっしょにいる
の……

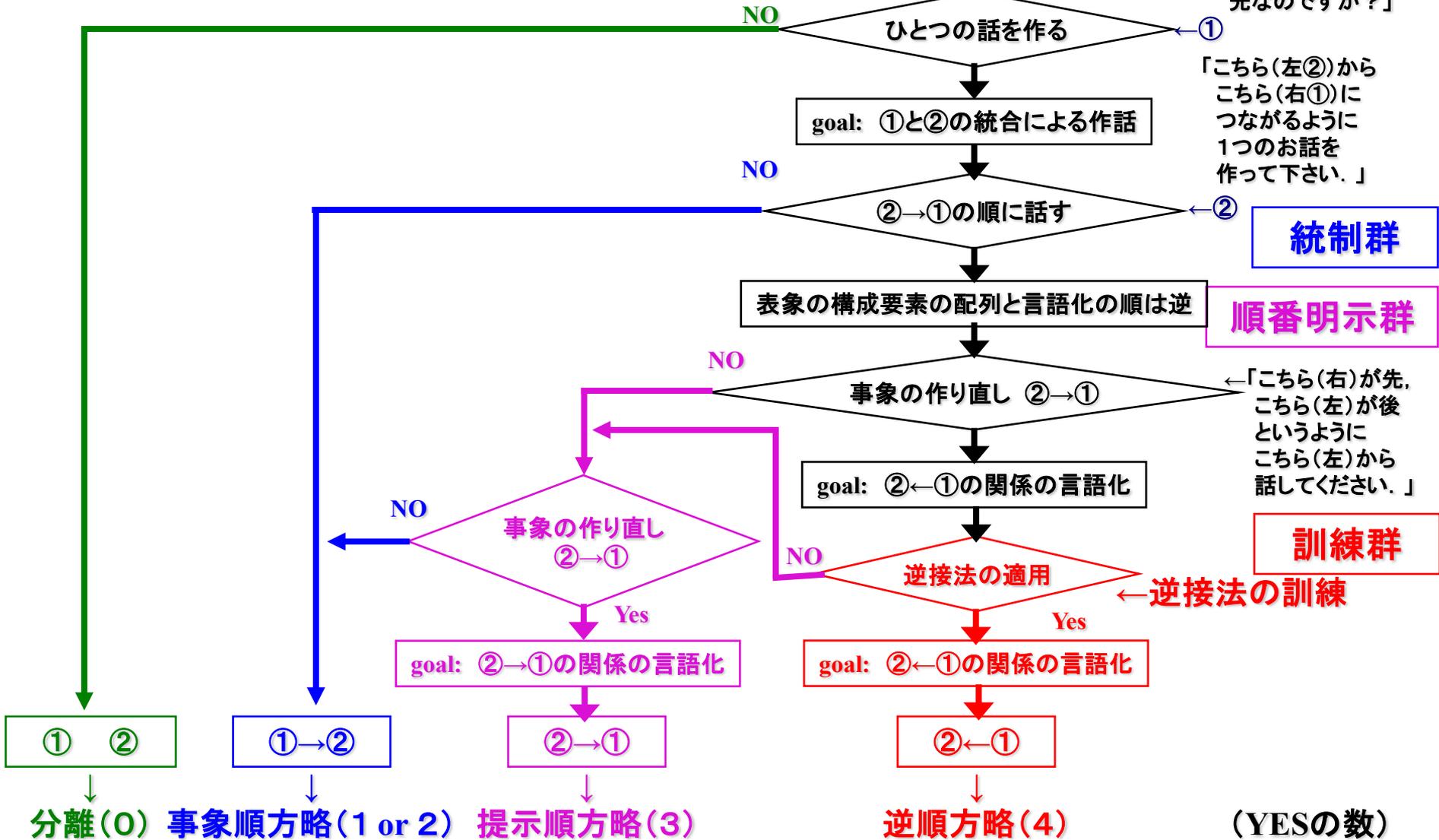
だけど、あたしのママとパパはいないの。彼らは、どんなことが
がおこるか話してくれて、それからすぐにおしごとにてかけるの。
だって、あたしは、だって、あたしは、だって、あたしは泣かないん
だから。 [32ヶ月4日]

子どもの情報処理過程

(各方略産出の過程)

子どもの内部過程

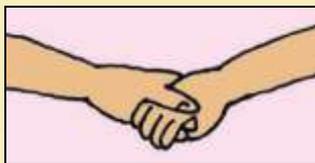
- ①; 原因の事象 →; 言及順
- ②; 結果の事象, ⇒; 表象内の配置順
- ◇; プロセスの有無 □; 内部の表象・産物



模倣再生の訓練

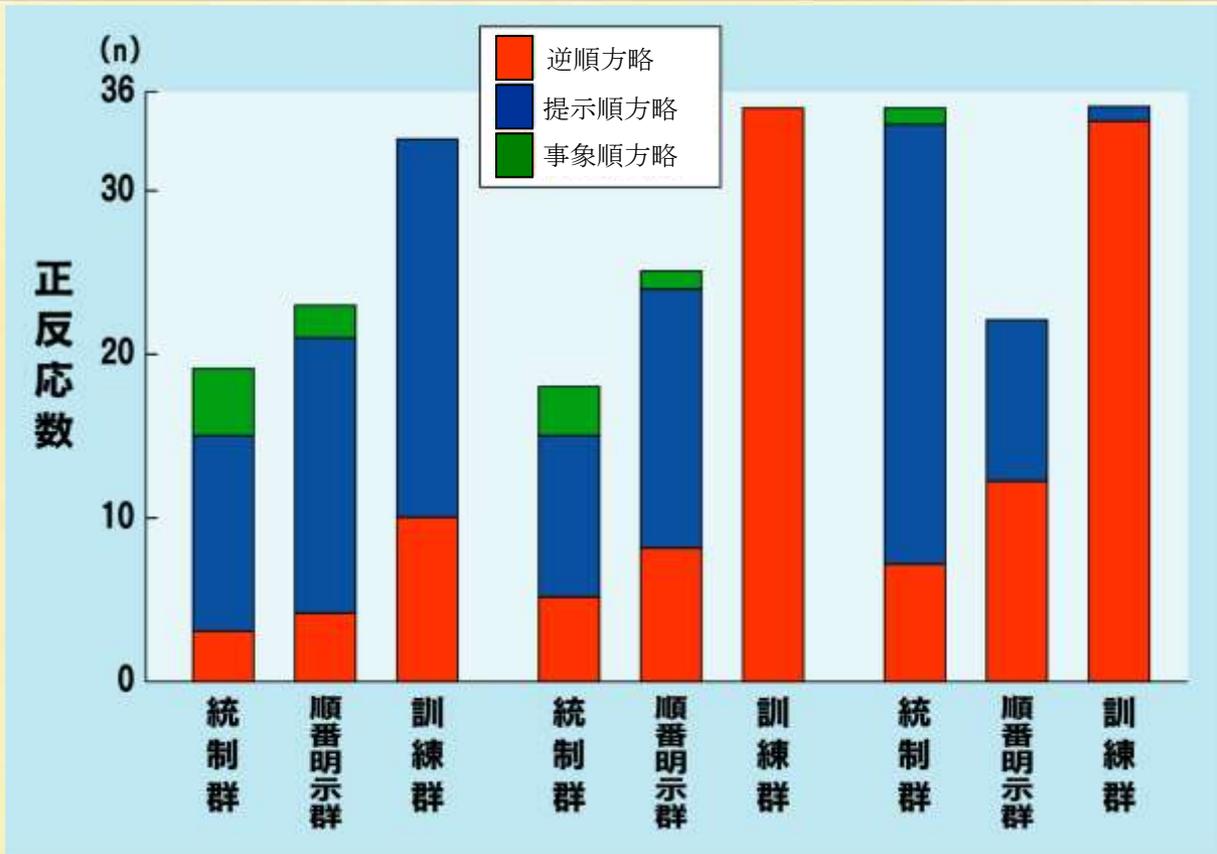


つなぎのことは



「だって、さっき、…だから」

逆向条件で用いられる方略



5歳前半

5歳後半

6歳前半

語り＝様式化・定型化

「談話の文法」(物語スキーマ)

5歳後半～

◆事件・出来事を語る

- ①起承(転)結構造
- ②常套句・常套の演出技法

「星を空へ返す方法」 [M.T. 5歳10ヶ月]

7月15日はうさぎさんの誕生日です。

今日は7月15日、うさぎさんの誕生日だから森の動物たちが集まってきました。

そして、みんなで食事をしているときにケーキの陰から星が出てきました。星はみんなに言いました。「ぼくね、空からおっこっちゃったの。だからね、ぼくをね、空に返して。」と言ったら、みんなはびっくりしました。

「空に返すって?」「そうさ、ぼくは空の星さ。」

「星?」と、みんなはびっくりしました。

「星を空へ返す方法」 [M.T. 5歳10ヶ月]

そこで、象は言いました。「おれにまかせてよ。」と、象はその星を自分の鼻に入れると、勢いよく飛ばしました。それでも星は、おっこってしまいました。

そしたら、こんどはみんなで相談をして、うさぎが言いました。

「そうだよ、ながーい笹を持ってこようよ。それに星をのせてあげてさ、そしてさ、また、その笹をさ、伸ばしてさ、空までさ、送ってあげるのさ。」とうさぎが言うと、みんなは「そうしよう。」と言って、笹をとってきました。

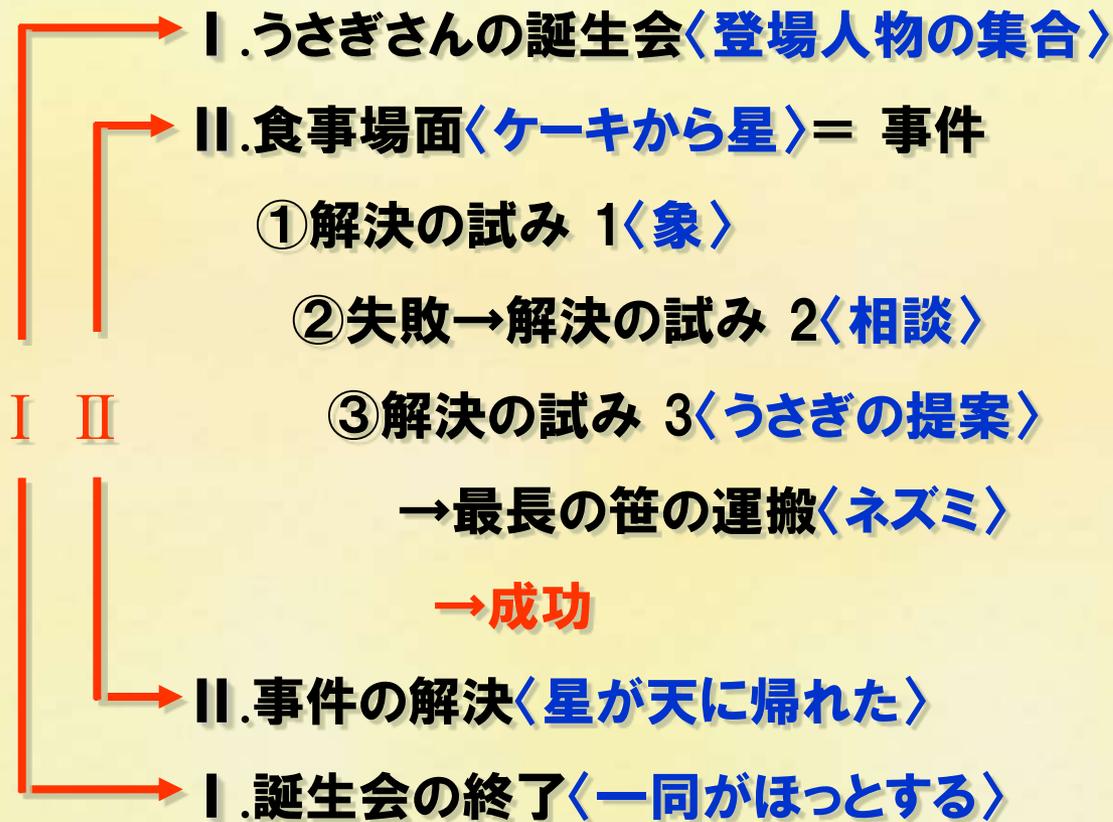
「星を空へ返す方法」 [M.T. 5歳10ヶ月]

そのなかでも一番笹が長いのをとってきたのはネズミでした。ネズミは、手がゆらゆらになって、すごく長い笹を持ってきました。みんなでそのさきに星をのせると、土の中に埋めて一日待ちました。

そうすると、その笹は、1日だというのに、ぐんぐん伸びて空に届きました。そして、星は空に帰ることができました。

そして、その誕生日がおわったあと、みんなが、家で空を見ると、キラキラ光ってる、とてもきれいな星がありました。みんなはその光ってる星を、きっと落ちてきた星だと思ったのです。おしまい。

「星を空へ返す方法」エピソード分析



まだ おさないころ

まだ おさないころ 五才の時
よく 本の中の

星の王子さまに あこがれました

中学生になったころ 十三才の時

たくさんの 恋に 希望をもちました

年ごろだね といわれるころ 十七才の時

たしか 二つ年上のあの人に

初恋を感じました

みちがえたよと 言われるころ 二十才の時

いまの主人と

愛しあったことを 思い出しました

いまでは もう 三十をすぎましたが

ふと 思いたす むかしのごとびです

そう 私の前を 足音もたてずに

すぎていった 思い出です

とおいとおい なつかしい なつかしい

思い出です



To be continued....

次回 物語ることの意義
テキスト第VI章後半

